

會務報告

第 24 卷 第 5 號 昭和 13 年 5 月

役員會

第 2 回理事會 (昭. 13. 3. 11)

出席者：辰馬會長，新井，平山兩副會長，金子，高橋，
岡田，川口各理事，小野寺庶務主任，朝倉會
計主任，糸川編輯主任

議 事

1. 第 2 回年次學術講演會開催に就き北海道支部と
打合せの結果来る 7 月札幌市に於て開催することとし
論文要旨前刷その他の事項を次の如く申合せ北海道支
部へ通知することとせり。

- (1) 論文要旨は土木學會誌半頁以内とし支部にて編
纂印刷すること。
- (2) 全文は 1 論文 7500 字以内とすること。
- (3) 支部に交附すべき經費豫算を 1000 円とす。
- (4) 講演集は発行せず土木學會誌に連載すること。
- (5) 開催日時及期間。講演者數及講演時間。會長講
演，通俗講演，見学，懇親會等に就ては支部の
報告を受くること。

第 3 回理事會 (昭. 13. 3. 22)

出席者：辰馬會長，平山副會長，金子，高橋，山崎，
岡田，榎木，川口の各理事，小野寺庶務主任，
朝倉會計主任，糸川編輯主任

報 告

1. 日本工學會に對し萬年會寄附工業獎勵資金受領
候補者として次の諸君を推薦せり。

- (1) 振動コンクリートに關する實驗
内 山 實 君
- (2) 水路が急激に擴大せる場合の動水学的研究
最 上 武 雄 君

2. 北海道支部より第 2 回年次學術講演會開催の次
第を次の如く報告ありたり。

講演會場：札幌市，北海道帝國大学

日 時：第 1 日：昭和 13 年 7 月 16 日(土曜日)

午前講演，午後講演

第 2 日：同 年 7 月 17 日(日曜日)

午前講演，午後見学

第 2 日以後：見学旅行

第 1 班：樺 太 (約 8 日間)

第 2 班：層雲峽～阿寒湖 (約 4 日間)

第 3 班：苫小牧～登別～室蘭 (約 2 日間)

3. 關西支部第 3 回役員會議事を報告せり。
4. 東北支部幹事藤田金次郎君は辭任し後任に中津
海濱二君就任せり。

議 事

1. 關西支部管内特別員の會費は同支部に於て 13 年
度分を全額請求のことに既に入會者の了解濟なる關係
上特に 3 月までの申込に限り(一部寄附金の意味を以
て)月割計算に依らず全額請求することに申合せり。
2. 土木學會文化映畫委員會より提案に係る映畫筋
書又は脚本を次の規定により賞金その他 300 円の豫算
にて懸賞募集することに申合せり。

土木映畫資料懸賞募集規定

1. 内容：土木に關する知識の普及を目的とせる劇
映畫，文化映畫の筋又は脚本及賞寫編輯
2. 形式：必ず 梗概 (1500 字以内)を附する事
必ずしもシナリオの形式に依るを要せず
3. 締切：昭和 13 年 8 月末日
4. 審査：本委員會委員及適當なる専門家に依頼す
5. 賞金：1 等 100 円 1 名
2 等 30 円 2 名
佳作 賞品 若干名
6. 發表：入選者は土木學會誌第 11 號にて發表す
7. 備考：応募原稿は返却せず
入選せる原稿に關する總ての權利は土木
學會に屬す

3. 北海道支部に對する入會金補助期間は支部申出
での事情を了とし昭和 13 年 7 月末日まで延長するこ
とに申合せり。

4. 滿洲國大陸科学院と會誌を交換することとせ
り。

5. 時局に對應する國內外各般の國策にして土木學
會に適應せる緊急事項を調査研究するため土木學會内
に時局對策委員會を設置することとし理事直接その衝
に當ることに申合せり。

6. 各種委員會の事業速進に關し各部の部長に於て
その部に屬する委員會事業の完了豫定期間を調査しそ
の腹案を理事會に持寄り協議することとせり。

7. 入退會の件

浦正君外 4 名を會員に，河部保愛君外 44 名を准員に，

大塚勝登君外 27 名を学生員に、尼崎築港株式会社外 4 社を特別員に入會を承認せり。

第 4 同理事會 (昭. 13. 4. 4)

報 告

1. 日本工学会社員總會及評議員會の議事を報告せり。

議 事

1. 日本工学会よりの申出に係る同會理事長候補者 3 名以内を本會より推擧の件は次の諸君を推薦することに申合せり。

古川阪次郎君、岡野 昇君、中川吉造君

2. 工学協會幹事野村龍太郎君より本會事業資金として 100 円寄附申出あり之を受領することとせり。

3. 4 月中の諸會合日を別紙(省略)の通りとしその開催日には關係部長出席し理事會との連絡を採ることとせり。

4. 時局對策委員會要綱を次の如く申合せり。

(1) 土木学会内に時局對策委員會を設置す

(2) 時局對策委員會は時局に對し國內外の土木に關する事業、行政、教育、其他各般の國策を研究して學會長に建言し又學會長の諮問に應ずるものとす

(3) 時局對策委員會に委員長 1 名、委員及幹事各若干名を置く

委員は學會長之を依囑す

幹事は學會總務部長、調査部長、法制部長、東亞部長を以て之に充つ

(4) 學會長必要ありと認めたるときは前項に掲げたるもの以外に幹事を依囑することを得

5. 時局對策委員會委員に次の諸君を選定し委員長は常議員會に於て選定することとせり。

中川 吉造君 久保田敬一君 米元 晋一君
山口 昇君 金子源一郎君 高橋 嘉一郎君
榎木 寛之君 宮本武之輔君 菊池 明君
町田 保君 伊 藤 剛君 川口 裕康君
岡田 信次君 村橋 恒造君 高橋 三郎君
森田 三郎君 内海 清温君 永井 了吉君

6. 滿鉄杉廣三郎、佐藤応次郎兩君の上京を機會に午餐會を開催することとせり。

第 2 同常議員會 (昭. 13. 3. 22)

出席者：辰馬會長、平山副會長、金子、高橋(嘉)、山崎、岡田、榎木、川口、松田、青木、伊藤、

中村各常議員、小野寺庶務主任、朝會會計主任、糸川編輯主任

報 告

1. 地下構造物に於ける鋼材節約調査委員會委員長に新井榮吉君を依囑せり。

2. 世界動力會議大堰堤國際委員會日本國內委員會幹事に高橋嘉一郎君を本會より選出せり。

3. 萬年會寄附工業獎勵資金受領候補者として本會より別紙(理事會議事參照)の通り推薦せり。

4. 北海道支部より第 2 回年次學術講演會開催次第を別紙(理事會議事參照)の通り報告ありたり。

5. 關西支部第 3 回役員會議事別紙(省略)の通り報告せり。

6. 東北支部幹事変更(理事會議事參照)

7. 講演及映畫の會を別紙(理事會議事參照)の通り開催することとせり。

8. 春季視察旅行を別紙(理事會議事參照)の通り開催することとせり。

9. 山梨高等工業学校及滿洲國大陸科学院と會誌を交換することとせり。

10. 入退會を別紙(省略)の通り承認せり。

議 事

1. 土木学会文化映畫委員會より提案に係る映畫筋書又は脚本を別記(理事會議事の通り)規定に依り賞金其他 300 円の豫算にて懸賞募集することとせり。

2. 北海道支部に對する入會金補助期間は支部申出での事情を了とし昭和 13 年 7 月末日まで延長することとせり。

3. 下記支那視察員に對し土木学会としての調査方を依囑し費用補助として 100 円宛贈呈することとせり。

磯谷道一君、菊池 明君、近藤泰夫君

4. 時局に對應する國內外各般の國策にして土木学会に適應せる緊急事項を調査研究するため土木学会内に時局對策委員會を設置することとし理事が直接その衝に當ることとせり。

5. 各種委員會の事業促進に關し各部の部長に於てその部に屬する委員會事業の完了豫定期間を調査しその腹案を理事會に持寄り協議することとせり。

總 務 部 記 事

第 11 回土木学会文化映畫委員會(昭. 13. 3. 15)

出席者：金森委員長，青木，廣田，金子，澤，五十嵐，
片平各委員，小野寺庶務主任

協議事項

1. 土木に関する映畫の筋及脚本の懸賞募集規定を下記の通り決議し、會誌5號に登載一般より募集することとせり。

2. 豫て調査依頼中の土木に関する映畫の題名其の他の報告につき協議し必要と認むるもの内容検討のため一応映畫を借用することとせり。

3. 次回委員会又は適當の時を選び前記借用の映畫を調査することとせり。

土木映畫資料懸賞募集規定

- (1) 内容 土木に関する知識の普及を目的とせる劇映畫，文化映畫の筋又は脚本及賞寫編輯
- (2) 形式 必ず梗概（1500字以内）を附する事
必ずしもシナリオの形式に依るを要せず
- (3) 締切 昭和13年8月末日
- (4) 審査 本委員会委員及適當なる専門家に依頼す
- (5) 賞金 1等 100円 1名
2等 30円 2名
佳作 賞品 若干名
- (6) 發表 入選者は土木學會誌第11號にて發表す
- (7) 備考 応募原稿は返却せず
入選せる原稿に関する總ての権利は土木學會に屬す

懇 談 會（昭.13.3.18）

會 場 丸ノ内會館

出席者：那波，名井，青山，井上，大河内各前會長，
中川，久保田，前川，眞島，米元，藤井，金森各委員長，上村，山口，内海，近藤，小澤，金子（征），松井，伊藤（剛），太田尾，佐藤（寛）五十嵐，瀧山，山岡，糸川，友永，片平，中村（清），齋藤（義）各委員幹事
辰馬會長，新井，平山兩副會長，金子，高橋，山崎，榎木，川口各理事，小野寺庶務主任

午後5時20分開會，辰馬會長より會長就任の挨拶に次で各種委員會の経過並に事業速進に就き意見を求められ，次の委員長又は幹事より委員會の経過報告並に此後の措置に就き簡単に意見を述べらる。

オリンピック大會土木施設調査委員会に就て，

金森委員

土木士法案調査委員会に就て 眞島委員長
企畫委員会に就て 米元委員長
東亞連絡委員会に就て 久保田委員長
コンクリート調査委員会に就て 藤井委員長
財政調査委員会に就て 前川委員長
土木技術者相互規約調査委員会に就て 青山委員長
請負工事標準契約書調査委員会に就て 近藤幹事
文化映畫委員会に就て 金森委員長
杭の支持力公式調査委員会に就て 金森委員
鋼橋示方書調査委員会に就て 友永幹事
防空施設研究委員会に就て 松井幹事
行政機構改正調査委員会に就て 榎木委員
用語調査常置委員会に就て 中川委員長
土木事業審査委員会に就て 金子部長
食後再開，時局對策委員會の設置就中對支土木事業關係に於ける土木學會の活動に關し出席諸君の緊張したる意見の交換あり午後10時散會せり。

第5回 オリンピック大會土木施設調査委員会 （昭.13.4.8）

出席者：岡野委員長，岩澤，岡田，金森，黒田，佐藤，藤井，井上，（代理）各委員，五十嵐幹事，金子總務部長，小長寺庶務主任

協議事項

1. 金森委員よりオリンピック東京大會組織委員会内構築委員会事業の要綱，交通委員會の設立並に土木關係の委員選任に就て委曲説明し本會の委員會は暫く存置して土木施設に關する諮問に応じ又は応援することにしたと希望あり。

金子部長より理事會の意向を述べ，委員長及各委員の意見交換ありて次の如き結論を見て理事會に報告することとした。

1. 本委員會は暫く存続すること。
2. 構築委員会委員に土木關係委員（必ずしも本會委員会委員に限らず）を追加任命する様建言すること。
3. 構築委員会現委員中，吉岡計之助君，森田三郎君，竹内常八君，堀 信一君を本會委員会委員に依囑し連絡を図ること。

参 考：構築委員会土木關係委員は次の6君なり。
佐藤利恭君，金森誠之君，吉岡計之助君，森田三郎君，竹内常八君，堀 信一君

編輯部記事

第4回會誌編輯委員會(昭.13.4.6)

出席者：山崎委員長，伊藤(剛)，大岡，太田尾，
風間，佐藤，當山，野口(代理)，廣瀬，
安宅各委員，糸川，豊田兩編輯囑託

協議事項

(1) 第24卷第4號所載の工事寫眞，討議，彙報，抄録，時報に對する謝禮を決定せり。

(2) 第24卷第5號へ下記を追加す。

工事寫眞：阿武隈川橋梁構桁架換工事，竣工せる釜無川第3發電所水車，宇佐美隧道内軌條溶接作業

抄録：管内等流の曲管，ゴルポー及丁字管による抵抗損失，鉄筋コンクリート梁，コンクリート床版の死荷重，1936年中の応用力学，コンクリート，橋梁及構造物に關する主なる海外文献，氷の爲に破壊せるNiagara瀑布の密月橋，カナダのウヰラント運河，河川工事に於ける排水，堰堤コンクリートの冷却，Shasta堰堤，曝氣と鹽素注加を行ふ珍しい浄水法，ラゴス港，倫敦港の發展，コンクリート道路床版。

時報：阿武隈川橋梁構桁架換工事概要，大堰堤國際委員會日本國內委員會議事，市街地建築法の改正，物都市計畫關係決定事項，舞鶴港修築工事竣工。

會員の頁：大阪市技術科會聯合會に就て。

(3) 第24卷第6號登載記事を下記の如く決定せり。

工事寫眞：徳島縣日開谷橋工事，江戸川水門工事。

講演：中支の水道に就て(會，工博，岩崎富久)，
北支視察談(會，工，兒島重次郎)。

彙報：コンクリート重力堤堰の經濟的計算法に就て(准，工，高畑政信)。

抄録：イタリーの道路及交通標識，パルプ製造所の不要液体から精製した新しき道路鎮定剤，道路工事に使用したセメント土砂コンクリート，時勢に適する木造トラスに就ての考察，Middletownの下水處分，無鉸拱の変形理論，石塊堰堤の設計，最近の航空港の問題。

(4) 「土木技術者の信條」を會誌に再掲載すること。

調査部記事

第15回請負工事標準契約書調査委員會

(昭.13.4.1)

出席者：上村，近藤，錢高，富永，宮長各委員，沼田前調査部長，小野寺庶務主任

議事

(1) 第2讀會に於て審議したる契約書案に就き専門家の意見を參酌して逐條審議を爲し第3讀會を終了せり。

(2) 第3讀會を終了したる契約書案を印刷して各委員に配布し次回委員會までに意見を持寄り審議の上決定案とすることとせり。

(3) 次回委員會を4月20日(水)開催することとせり。

法制部記事

第5回土木士法案調査委員會(昭.13.3.31)

出席者：眞島委員長，阿部，樺島，田中，山崎各委員，野原幹事，榎木法制部長，小野寺庶務主任

(1) 建築士法案第73議會衆議院通過を報告す。

(2) 土木士法案を次期通常議會へ提出することを申合せり。

(3) 眞島委員長起草の土木構造士法案に就き逐條審議をなし第一讀會を終了せり。

(4) 法案の名稱に就ては更に協議することとせり。

(5) 法案提出理由説明書を野原幹事に於て作製することとせり。

(6) 上記の土木構造士法案を印刷に附し各委員に配付し意見を徴することとせり。

土木學會關西支部記事

第3回役員會(昭.13.3.10)

出席者：鳥崎支部長，荻原幹事長，柴田幹事，鈴木，林，稻浦，石原各參議員，清水前支部長，山本主事

議事

(1) 3月座談會の件

(2) 4月見學會の件

(3) 5月巡回講演會の件

(4) 6月通俗講演會の件

(5) 土木事業審査委員會の件

(6) 9月第11回土木工学研究會の件

(7) 特別員會費の件

日本工学会記事

○昭和 13 年 3 月 18 日日本工学会評議員會を開催し一般會務を報告し次で下記の件を決議せり。

- (1) 社員總會提出事項に關する件
- (2) 萬年會寄附工業獎勵資金交付者決定の件
- (3) 日本工学会機關誌及年報に關する件
- (4) 工学用語集發行に關する件
- (5) 第 4 回工学会大會開催に關する件

○昭和 13 年 3 月 18 日日本工学会社員總會を開催し昭和 12 年度事務及事業報告、收支決算、貸借對照表、昭和 13 年度收支豫算の承認を得、次期理事長の選舉は臨時總會に附議することに決定せり。

その他記事

○昭和 13 年 4 月 1 日土木学会誌第 24 卷第 4 號を發行成規の手續を了し全會員に配布せり。

入會及転格會員

特別員 (入會)

尼崎築港株式会社	内藤正太郎君	岡部三郎君	熊倉真三君	3級
大阪電気軌道株式会社	大戸武之君	鈴木角一郎君	芝谷常吉君	"
日本橋梁株式会社	武田富吉君	龜井英吉君	光永一三男君	"
阪和電気鉄道株式会社	鈴木康君	原 横藏君	市川壽雄君	"
三菱重工業株式会社	松井小三郎君	伊集院清彦君		2級

會員 (入會)

浦 正君	滋州園吉林會土木課	細江直矢君	北海道廳營造土木事務所	船木義松君	樺太廳殖民課
佐野港造君	"	齋藤 薫君	樺太廳交通部土木課		

准 員 (入會)

阿部保愛君	北海水力電気株式会社	兒玉武三君	京都帝大工学部土木教室	福島 浩君	横須賀海軍砲臺部
青柳叙二君	雨龍電力株式会社	佐々木 章君	王子製紙會社苫小牧工場	邊見 彰君	北海道廳室蘭土木事務所
赤間 信君	都市計畫青森地方委員會	佐々木 進君	北海水力電気株式会社	細川行雄君	東京電燈株式会社
朝倉正晃君	王子製紙苫小牧工場	佐藤長雄君	大阪電信局城東工務出張所	前澤平三郎君	黒川電力株式会社
今岡 勇君	青森縣廳土木課	佐藤文吾君	北海水力電気株式会社	松下一 勇君	青森縣五所川改修事務所
岩戸 賢君	東茨上野伴線事務所	里見重善君	青森縣廳土木課	山本省吾君	青森縣尾川改修事務所
内田菊藤君	新京特別市公署工務處土木科	島田義章君	北海道帝大工学部	米原保夫君	朝鮮總督府内務局裡里土木出張所
内田健正君	都市計畫青森地方委員會	城塚孝雄君	株式会社鹿島組	渡邊治助君	青森縣青森土木出張所
梅川健治君	青森縣廳土木課	瀨成田助治君	内務省大阪土木出張所	太田三男君	樺太廳交通部土木課
香月登喜雄君	朝鮮鉄道局建設課設計係	棚谷與一君	長野縣廳島土木出張所	佐藤八郎君	樺太廳交通部土木課
神長龍介君	株式会社岡組	中尾純一君	朝鮮電信局電気課	針ヶ谷 光君	内務省下關土木出張所
河野良雄君	青森縣廳石土木出張所	中村祐五君	北海水力電気株式会社	松本千秋君	樺太廳交通部土木課
岸田政治君	兵庫縣瀧坂土木出張所	成田嘉津彌君	青森縣廳五所川原土木出張所	三木森雄君	"
工藤重造君	青森縣五所川原土木出張所	畑井 幸君	内務省仙臺土木出張所	渡邊貞夫君	"
小坂政雄君	朝鮮鉄道局平壤築造事務所	廣瀬武士君	樺太廳交通部土木課	渡邊善郎君	"

學生員 (入會)

大塚勝登君	日大高工	小池 榮一君	北海道帝大	杉山 勇君	名古屋高工教員養成所
木天秀郎君	名古屋高工	佐多直人君	日大高工	助川 悟君	日大高工
金 亨 杰君	京城高工	齋藤八郎君	"	千田 正彦君	名古屋高工
國枝政典君	名古屋高工	迫田貞男君	熊本高工	高橋 堯君	日大高工

谷 垣 盛 二 君	北大土木専門部	三 宅 剛 君	名古屋高工	永 田 安 彦 君	北海道帝大
戸 田 登 君	日大高工	向 井 庸 郎 君	日大高工	坂 内 昌 夫 君	〃
富 樫 定 治 君	〃	山 下 茂 夫 君	名古屋高工	安 井 寛 治 君	〃
長 谷 川 武 雄 君	〃	穴 釜 正 吉 君	北海道帝大	渡 邊 光 君	〃
堀 切 重 徳 君	〃	黒 地 政 美 君	〃		
松 元 重 人 君	〃	中 村 桑 夫 君	〃		

土 木 学 會 々 員 数

會 員	准 員	学 生 員	特 別 員	賛 助 員	合 計
3 003	3 204	803	47	21	7 078

會 員 大 友 勇 君, 飯 島 一 郎 君, 川 村 文 藏 君, 小 林 計 巳 君 の 計 報 に
接 ず, 本 會 は 恭 しく 哀 悼 の 意 を 表 ず

准 員 島 名 榮 助 君, 田 邊 文 治 君 の 計 報 に 接 ず, 本 會 は 恭 しく 哀 悼 の 意 を
表 ず

学 生 員 梅 原 春 夫 君 の 計 報 に 接 ず, 本 會 は 恭 しく 哀 悼 の 意 を 表 ず

會 告

土木映畫資料懸賞募集

下記規定に依り土木映畫資料を懸賞募集致します、奮て応募して下さい。

1. 内 容: 土木に關する知識の普及を目的とせる劇映畫, 文化映畫の筋又は脚本及實寫, 編輯。
2. 形 式: 必ず梗概 (1500 字以内) を附すること。
必ずしも「シナリオ」の形式に依るを要せず。
3. 応募資格: 一般 (必ずしも土木學會々員たるを要せず)。
4. 締 切: 昭和 13 年 8 月末日。
5. 審 査: 土木學會文化映畫委員會委員及適當なる専門家に依頼す。
6. 賞 金: 1 等 100 円 1 名
2 等 30 円 2 名
佳作 賞品 若干名
7. 發 表: 入選者は土木學會誌第 24 卷第 11 號にて發表す。
8. 備 考: 応募原稿は返却せず。
入選せる原稿に關する總ての權利は土木學會に屬す。

土 木 學 會

會 告

時は新緑の好季!!

春のエクスカーション!!!

第 27 回視察旅行を東北支部と合同にて下記プログラムの通り飯坂温泉 1 泊、東北振興電力阿武隈川発電所工事、阿武隈川及第 4 號國道改修工事の視察を(晴雨に拘らず)催します、この絶好の機会を逸せず奮て多数の御参加を希望致します。

集合場所及日時: 5 月 14 日(土曜日)午後 8 時まで飯坂温泉花水館に集合。

行 程: 第 1 日: 14 日午後 8 時 30 分より飯坂温泉花水館に於て大懇親の宴を開き同所に 1 泊温泉情緒を満喫。

第 2 日: 15 日午前 7 時 30 分自動車(バス)に分乗飯坂温泉を出發、第 4 號國道をドライブ東北振興電力蓬萊堰堤及同発電所工事並に信夫堰堤及同発電所工事を視察し福島ビル鳩屋食堂に到り晝食休憩、午後 12 時 20 分より日本紡績ステーブル・フアイバー工場を見学、阿武隈川改修工事を視察し、信夫文字摺の古蹟を探り午後 1 時 50 分福島驛着解散。

會 費: 金 5 円 集合より解散まで一切の費用(汽車賃自辨)會費は當日花水館に於て頂きます。

参 加 申 込: 5 月 10 日までに本會宛御申込下さい。

◎歸途、須賀川牡丹園の牡丹觀賞御希望の方は學會係員まで豫め御申出で下されば便宜を計ります。

◎汽車時刻は下記の時間を御利用下されると便利です。

(往) 上野驛發午後 0.05	福島驛着午後 6.54
” ” 1.30	” ” 7.40 (準急)
(往) 仙臺驛發 ” 2.25	” ” 4.34
” ” 4.30	” ” 6.37

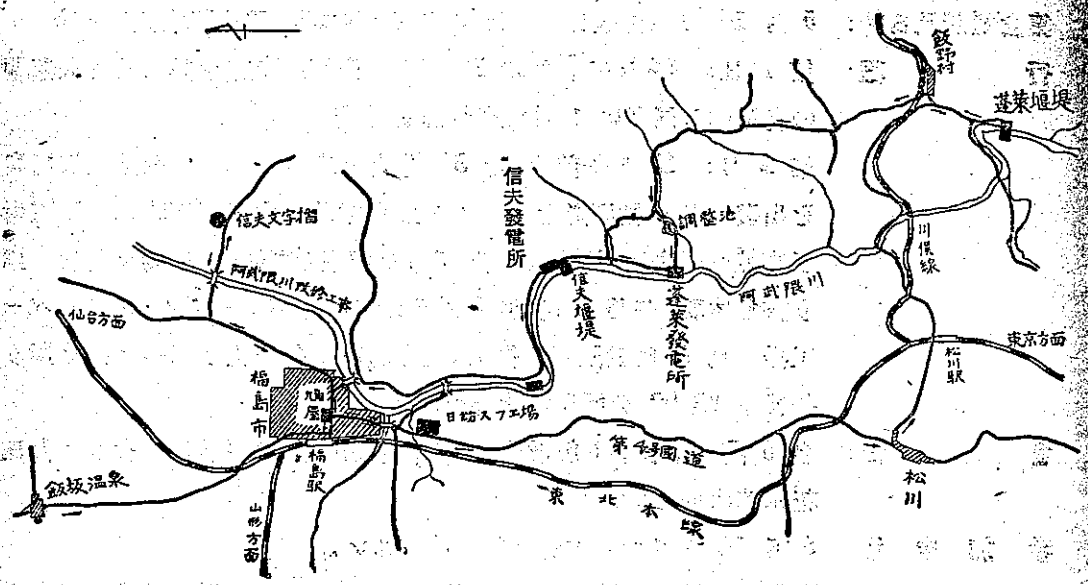
◎飯坂温泉行は 30 分毎に電車又はバスが出ます。

(復) 福島驛發午後 2.13	上野驛着午後 7.05 (急行)
” ” 2.51	” ” 9.25
須賀川驛發 ” 6.19	” ” 11.17

(復) 福島驛發午後 3.08	仙臺驛着午後 4.34 (急行)
” ” 3.40	” ” 5.58
須賀川驛發 ” 6.13	” ” 9.30

土 木 学 會

第 27 回 視 察 旅 行 略 図



會 告

例年の通り發明獎勵費交付（交付規則大正6年10月13日）
（農商務省令第28號）に關し特許局長官よ
り下記の通り照會がありましたから、御希望の向は同局に付詳細御問合せ
下さい。

記

昭和13年4月2日

特 許 局 長 官

社 團 法 人 土 木 学 會 御 中

昭和13年度發明獎勵費交付に關する件

優秀なる發明を誘掖獎勵する爲從來發明獎勵費を交付し來候處昭和13年度に於ても豫
算の範圍内に於て發明の研究費、見本製作費又は試験費の補助可相成筈に付貴會關係者
に此の旨可然周知方御取計相煩度此段得貴意候也

追而右申請は地方長官を經由の上5月末日迄に差出す様致度此段申添候

附 記 發明獎勵費交付規則は本誌第20卷第4號參照

會 告

本會々員にて今次の事変に際して出征せられる方は出征中會費免除の手續きを採りますから至急當學會まで御通告下さい。本會は下記各召會員各位の武運長久を祈る。

志 召 會 員 氏 名

(會 員)

青木信夫君	安藤四良君	井上清太郎君	飯田房太郎君
浦田清志君	藤澤景秀君	尾錢峰夫君	奥田秋夫君
國澤舜二君	倉田一郎君	小谷金馬君	後藤禎藏君
坂野昇君	篠原武司君	清水雄吉君	瀬能三郎君
富樫凱一君	長友一君	内藤龍壽君	丹羽良彦君
古田泰介君	山岸誠君		

(准 員)

伊藤一郎君	井内萬治君	井上忠熊君	池戸貫三君
石倉寬治君	板垣正男君	一之瀬喜雄君	今川周一君
宇佐美勇司君	竹田三郎君	上原要三郎君	内田襄君
小澤辰喜君	大沖田二郎君	大槻良弘君	大森蕃二君
岡本恒煮君	金澤義之介君	奥山幸雄君	加藤三重次君
片岡市郎君	川勝常次郎君	金子輝男君	録田昌俊君
神森五郎君	木村壽夫君	川崎毅三郎君	河田明則君
河川吉三君	久保正君	龜甲谷貞三君	岸忠男君
小久保參次君	小土井善雄君	熊耳爲男君	桑崎正純君
國分正胤君	近藤愛知君	小林伯重道君	小佐伯秀雄君
佐藤眞一君	齋藤良太君	里吉忠典君	澤田克己君
設樂藤雄君	四十萬小祐君	清水清三君	須藤正文君
鈴木駿一郎君	鈴木誠一君	清野一水君	田所文雄君
田村勳君	高井一男君	高島三郎君	高野義懋君
高橋正一君	豊田實君	中津海俊雄君	筑村正君
寺田功君	永井良男君	永島賢治君	中能富五郎君
中村吉光君	平野勤君	廣田謙一君	福島公輝君
平福島峰夫君	藤井松雄君	藤森德壽君	藤本正次君
堀修一君	堀橋作藏君	本松昌治君	增本敏雄君
松垣光君	三輪銀吾君	村井義英君	松本恒夫君
三好雄次郎君	山田安夫君	山中時二君	安山本三郎君
山岸正應君	湯澤貞夫君	吉田邊有友君	山本浩君
山本芳正君	和田豊君		渡邊嘉太郎君

(学 生 員)

浦部千尋君	小川九十九君	金出地史朗君	北條稔君
森芳太郎君	米澤佳年君	和田正一君	宮崎義成君

昭和 13 年 4 月 15 日

土 木 学 會

土木技術者の信條

- 一、土木技術者は國運の進展並に人類の福祉増進に貢獻すべし。
- 二、土木技術者は技術の進歩向上に努め、其の眞價を發揮すべし。
- 三、土木技術者は常に眞摯なる態度を持し、徳義と名譽とを重んずべし。

土木技術者の實踐要綱

- 一、土木技術者は自己の専門的知識及経験を以て國家的竝に公共的諸問題に對し積極的に社會に奉仕すべし。
- 二、土木技術者は学理、工法の研究に勵み進んで其の結果を公表し以て技術界に貢獻すべし。
- 三、土木技術者は苟も國家の發展國民の福利に背戾するが如き事業は之を企圖すべからず。
- 四、土木技術者は其の關係する事業の性質上特に公正を持し清廉を尙び苟も社會の疑惑を招くが如き行爲あるべからず。
- 五、土木技術者は工事の設計及施工につき經費節約或は其の他の事情に捉はれ爲に從業者並に公衆に危險を及ぼすが如きことなきを要す。
- 六、土木技術者は個人的利害の爲に其の信念を曲げ或は技術者全般の名譽を失墜するが如き行爲あるべからず。
- 七、土木技術者は自己の權威と正當なる價値を毀損せざる様注意すべし。
- 八、土木技術者は自己の人格と知識経験とにより確信ある技術の指導に努む可し。
- 九、土木技術者は其の關係する事業に萬一違法に屬するものあるを認めたる時は其の匡正に努むべし。
- 十、土木技術者は其の内容疑しき事業に關係し又は自己の名義を使用せしむる等の事なきを要す。
- 十一、土木技術者は施工に忠實にして事業者の期待に背かざらんことを要す。

備考

本信條及實踐要綱を以て相互規約に代ゆるものとす。

會 告

図書室及娛樂室御利用に就て

本會所有の図書及雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時、自7月21日至8月31日 及土曜日 自午前9時至午後4時、
自1月4日至7月20日

但し 日曜日及祭日休。

図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しました、又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 径 14 mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 14 錢を要す)



(實物大)

會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1月~6月)	第 2 期分 (7月~12月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月
納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16328 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 1 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。發行後數ヶ月経過しての照會は時に残部皆無となり配布不可能の場合があります。

訂 正 表

岸壁特に杭床式矢板壁に働く主働土圧力の研究

(第 21 卷第 2 號附録)

頁	行	誤	正
152	下 8~10		削除
153	上 1	$\alpha > \theta_a^h, E > E_0$ の場合	$\alpha < \theta_a^h$ の場合
156	上 3 行目	0.0630 1	0.0603 1
"	下 5	$2 \sin \varphi \cos(\varphi - \psi) \dots$	$2 \cos \varphi \cos(\varphi - \psi) \dots$
157	表-2 中	0.3823	3.828
162	上 2	(5a) 式より	(5) 式より
"	下 7 最後より 2 行目	0.100	-0.100
163	下 12	$E_0 = \frac{0.3011 \times 4 \times 0.3011}{2} \dots$	$E_0 = \frac{0.3011 + 4 \times 0.3011}{2} \dots$
164	上 3	$\dots = \frac{4 \times 17}{7(9+8)} = \dots$	$\dots = \frac{4 \times 17}{7(7+8)} = \dots$
164	下 7	$B_f \sqrt{E_0^2 + B^2} = \dots$	$B_f = \sqrt{E_0^2 + B^2} = \dots$
165	上 8	全体と	全体を

正 誤 及 訂 正 表

ワレン形骨組抗圧柱の弾性破損に就て

(第 21 卷第 4 號附録)

頁	行	誤	正
333	脚註	Wien Julins Springer	Wien Julius Springer
337	下より 5 行	$dy = dr \sin \theta - r \cos \theta, d\theta$	$dy = dr \sin \theta + r \cos \theta, d\theta$
338	(9) 式中	$\frac{2A_a}{A_a}$	$\frac{2A_a}{A_f}$
338	上より 7 行	$D_m \cos \theta + P_m + P_{m+1} = P$	$D_m \cos \theta + P_m + P_{m-1} = P$
339	上より 4 行	$\sum V = 5$	$\sum V = 0$
340	下より 8 行	$P_n = \frac{P}{2} - \frac{P}{4h}(\eta_{n-1} + \eta_n)$	$P_n = \frac{P}{2} - \frac{P}{2h}(\eta_{n-1} + \eta_n)$
341	下より 11 行式中	$\frac{Pl}{2A_f}$	$\frac{Pl}{2EA_f}$
345	上より 4 行式中	$\frac{\sigma_k}{E}$	$\frac{\sigma_k}{E}$
346	(35a) 式の右邊	$-\frac{c}{2a} \cdot \frac{\sigma_0}{E} \left\{ a + (1+b) \frac{\sigma_0}{E} \right\}$	$-\frac{c}{2a} \cdot \frac{\sigma_0}{E} \left\{ a + (1+b) \frac{\sigma_0}{E} \right\}$
346	下より 11 行	$y = e^{ma}$	$y_m = e^{ma}$
347	(40) 式の分母中	$\cos^2 \theta$	$\cos^3 \theta$
347	(44) 式及 (44a) 式の右邊は括弧以下を取り單にそれぞれ $\frac{c}{2a} \cdot \frac{\sigma_0}{E}$ 及 $\frac{l}{2} \cot \theta \cdot \frac{\sigma_0}{E}$ とする。(44a) 式の右邊の $\cos \theta$ は $\cot \theta$ の誤り。		
347	下より 3 行の式の右邊	$\frac{l}{2} \cot \theta \cdot \frac{\sigma_0}{E} \left\{ 2K \sin^2 \theta \cos \theta + (1+2K \cos^3 \theta) \frac{\sigma_0}{E} \right\}$	$\frac{l}{2} \cot \theta \cdot \frac{\sigma_0}{E}$
348	下より 2 行	$\frac{\sqrt{2}}{2}$	$\frac{\sqrt{3}}{2}$
352	上より 4 行	Madai	Nadai
355	(53) 式の分母中	$K \cos \theta$	$K \cos^3 \theta$
355	表-4 中	0.0009 41	0.0009 64
355	下より 6 行	$\sigma_k = 0.0009 41 \times 21 000 000 = 1 976 \text{ kg/cm}^2$	$\sigma_k = 0.0009 64 \times 2 100 000 = 2 021 \text{ kg/cm}^2$
356	下より 8 行	$\sigma_k = 2 060 \text{ kg/cm}^2$	$\sigma_k = 2 060^* \text{ kg/cm}^2$

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXIV, NO. 5, MAY. 1938.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.	39
Papers.	
Vertical Pressure in Dry Sand Layer. <i>By Ryōe Ono, Dr. Eng., Member.</i>	
<i>Kōzō Manai, C. E., Member.</i>	437
On the Construction of the proposed Arimine Dam. <i>By Eitirō Isii, Dr. Eng., Member.</i>	461
A New Method of Earthquake-Resistant-Constructions. <i>By Hukuhei Takabeya, Dr. Eng., Member.</i>	485
Discussions.	491
Notes on Matters of Interest.	493
Abstracts of Selected Articles.	499
Current Notes.	537
Our Members Say.	553
Patent News.	557
New Publications.	559

OFFICE

No. 6, 3-TYŌME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.